

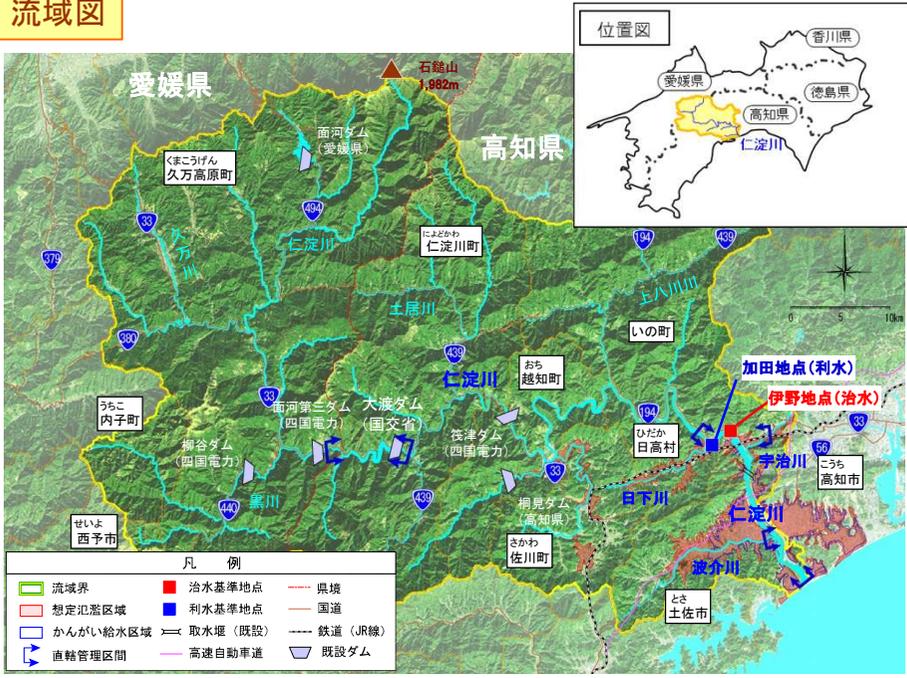
仁淀川流域の概要

令和6年5月21日
国土交通省 四国地方整備局
高知県

流域の概要

- 仁淀川は幹川流路延長124km、流域面積1,560km²の一級河川であり、その流域は高知県・愛媛県にまたがり、3市6町1村を抱える。
- 下流域では河口付近まで山地がせまり、東西から合流する支川沿いに細長く平野が形成され、主要な市街地が位置する。下流域で合流する支川は河床勾配が極めて緩く、低奥型地形であるため、仁淀川本川からの背水の影響を受けやすく、古くから内水被害が多発している。

流域図



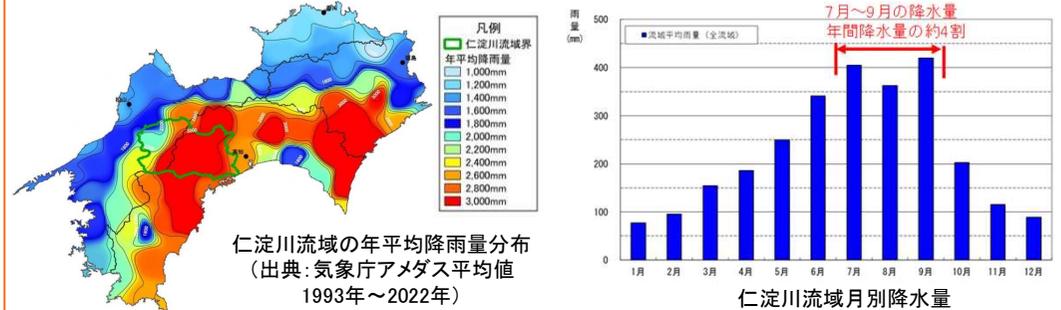
流域及び氾濫域の諸元

流域面積(集水面積) : 1,560km²
 幹川流路延長 : 124km (うち直轄管理区間25.78km)
 流域内市町村 : 3市6町1村 (高知市、土佐市、いの町、佐川町、越知町、仁淀川町、日高村、西予市、久万高原町、内子町)

流域内人口 : 約9.3万人 (第10回河川現況調査より)
 想定氾濫区域面積 : 57.1km²
 想定氾濫区域内人口 : 約4.5万人 (第10回河川現況調査より)

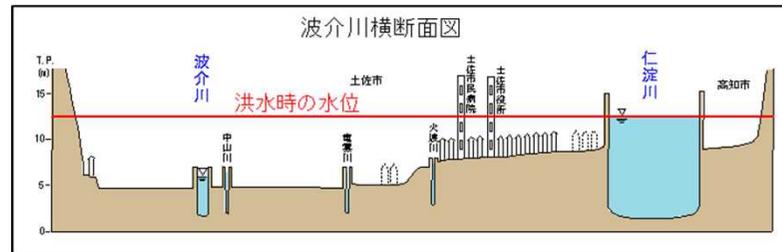
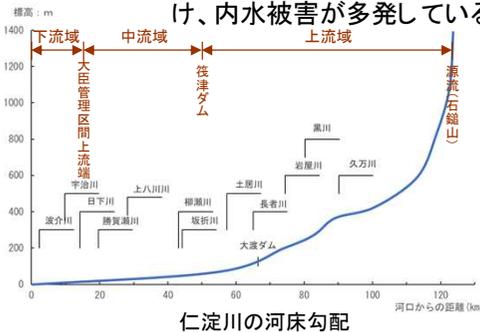
降雨特性

- 年間平均降水量は約2,700mmで全国有数の多雨地帯
- 台風期にあたる7~9月の降水量は年間降水量の約4割を占める



地形特性

- 河床勾配は上流域では1/100~1/150程度、中~下流域は1/1,000程度
- 河口付近まで山地がせまり、東西から合流する支川沿いに平野・市街地が形成されている
- これら支川は河床勾配が極めて緩く、低奥型地形であるため、仁淀川本川の背水の影響を受け、内水被害が多発している

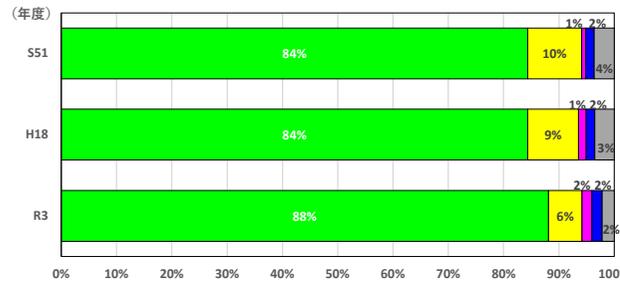


河口側から見た仁淀川の様子

流域の概要

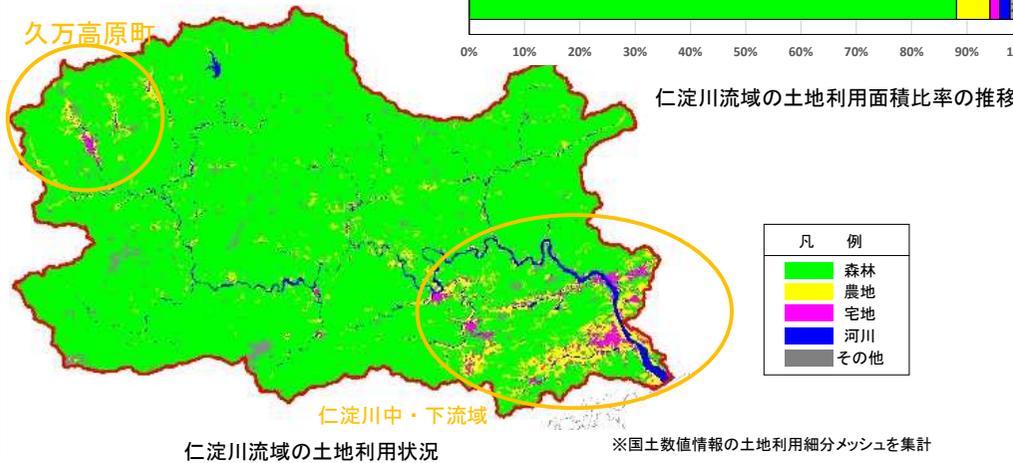
- 仁淀川流域の約88%は山地であり、土地利用の大半が山林で、田畑や宅地の占める割合は小さいが、昭和年代に比べると中流域～下流域の仁淀川本川及び支川の沿川に集中している市街地の割合は増加している。
- 下流域は、温暖な気候を利用したハウス農園が盛んであり、アルミ電解コンデンサ用セパレータの生産が世界シェアの約60%を占める企業が立地している。
- また、国道56号や高知自動車道、JR土讃線が仁淀川を横断し、交通の要衝となっている。

土地利用



令和3年

久万高原町



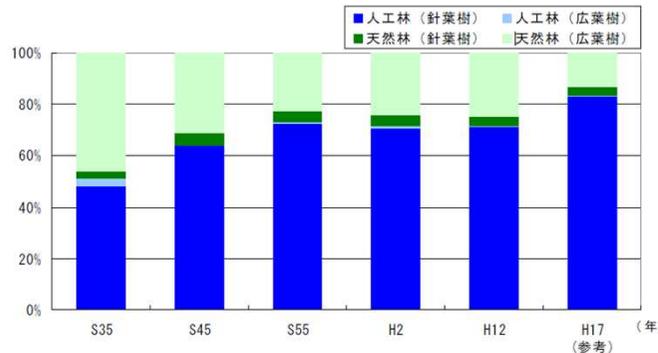
仁淀川中・下流域

仁淀川流域の土地利用状況

※国土数値情報の土地利用細分メッシュを集計

森林

- ・仁淀川流域では、上・中流域を中心に森林が広く分布し、流域の約9割を占めている。
- ・全国的な傾向と同様に、急激な過疎・高齢化や木材価格の低迷等により、林業の水害が進み間伐等の手入れが行き届かない人工林が増え、森林の荒廃が進んでいる。



※高知県統計書、愛媛県統計年鑑のデータをもとに流域内の関係自治体の値を集計
 ※H12までは面積比率であるが、H17は体積比となっている
 ※流域にわずかしが含まれない西予市、内子町、高知市は除く

仁淀川流域の人工林と天然林の推移

主要な産業と交通

- ・キュウリ、ナス、ピーマンなどの促成栽培やハウス農園などが盛んである。
- ・アルミ電解コンデンサ用セパレータは世界シェアの約60%を占める。



ハウス農園 (土佐市新居地区)



アルミ電解コンデンサ用セパレータ

- ・高知県西部地域と高知市を結ぶ唯一の幹線道路である国道56号や、高知市と四万十町を結ぶJR土讃線が仁淀川下流域を横断し、県民生活・経済に重要な位置を占める交通の要衝となっている。
- ・さらに、上・中・下流部の本川沿いを、高知市と松山市を結ぶ国道33号が縦断しており、地域住民の日常生活に大きな役割を果たしている。



主な洪水と治水対策の経緯

- 戦後最大流量を記録した昭和38年8月洪水をはじめ、たびたび洪水による被害が発生。昭和50年8月洪水では堤防の決壊や内水による浸水により戦後最大の被害が発生。
- 平成20年に工事実施基本計画の基本高水を踏襲した河川整備基本方針を策定。
- その後、平成25年に仁淀川水系河川整備計画（以下、整備計画）を策定。
- 平成26年8月洪水では下流域を中心に内水による甚大な被害が発生したため、平成28年に整備計画を変更し、支川対策を位置付けた。

仁淀川の本川と治水対策

※流量はダム氾濫戻し

S23.11 直轄河川改修に着手 直轄河川改修計画

伊野地点：計画高水流量12,000m³/s

S38.8 洪水（台風9号）

基準地点伊野：約13,500m³/s（戦後最大）

被害状況：家屋全壊3戸、床上浸水1,569戸、床下浸水289戸

S41.4 一級河川の指定

S41.6 工事実施基本計画の策定

基準地点伊野 計画高水流量12,000m³/s

（基本高水13,500m³/s、大渡ダムで1,500m³/s調節）

S43 大渡ダム建設工事着手

S50.8 洪水（台風5号）

基準地点伊野 約13,500m³/s

被害状況：家屋全・半壊2,128戸、床上浸水5,272戸、床下浸水1,792戸

S61.11 大渡ダム完成

H元.3 工事実施基本計画の改定

基準地点伊野 計画高水流量14,000m³/s

（基本高水17,000m³/s、上流ダム群で3,000m³/s調節）

H16.10 洪水（台風23号）

基準地点伊野 約10,400m³/s

被害状況：床上浸水81戸、床下浸水226戸（土佐市、いの町、日高村）

H17.9 洪水（台風14号）

基準地点伊野 約12,400m³/s

被害状況：家屋全壊1戸、床上浸水74戸、床下浸水105戸（土佐市、いの町、高知市（旧春野町））

H20.3 河川整備基本方針の策定

基準地点伊野 計画高水流量14,000m³/s

（基本高水17,000m³/s、上流ダム群で3,000m³/s調節）

H25.12 河川整備計画の策定

八田堰上流 河道整備流量11,000m³/s（戦後第3位）

八田堰下流 河道整備流量12,900m³/s（戦後最大）

H26.8 洪水（台風第12号、11号）

基準地点伊野 約7,200m³/s（12号）、約9,300m³/s（11号）

被害状況：床上浸水330戸、床下浸水477戸（2洪水の延べ戸数）

H28.12 河川整備計画の変更

H25.12より目標規模の変更はなし（支川対策を位置付け）

主な洪水被害



高岡地区

■昭和38年8月（台風9号）



波川地区

■昭和38年8月（台風9号）



土佐市市街地

■昭和50年8月（台風5号）



用石地区

■昭和50年8月（台風5号）



日高村役場

■昭和50年8月（台風5号）



加田地区

■平成16年10月（台風23号）



谷地区

■平成17年9月（台風14号）



蓮池地区

■平成17年9月（台風14号）



枝川地区

■平成26年8月（台風12号）



沖名地区

■平成26年8月（台風12号）



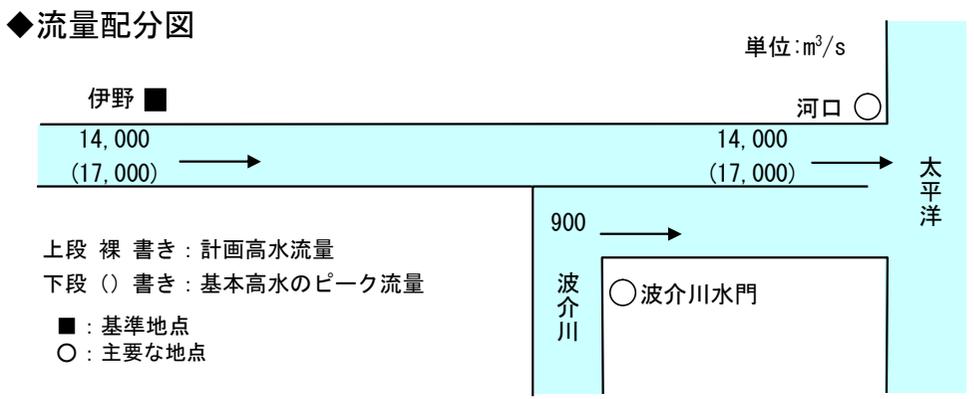
沖名地区

■平成26年8月（台風11号）

仁淀川水系河川整備基本方針と仁淀川水系河川整備計画

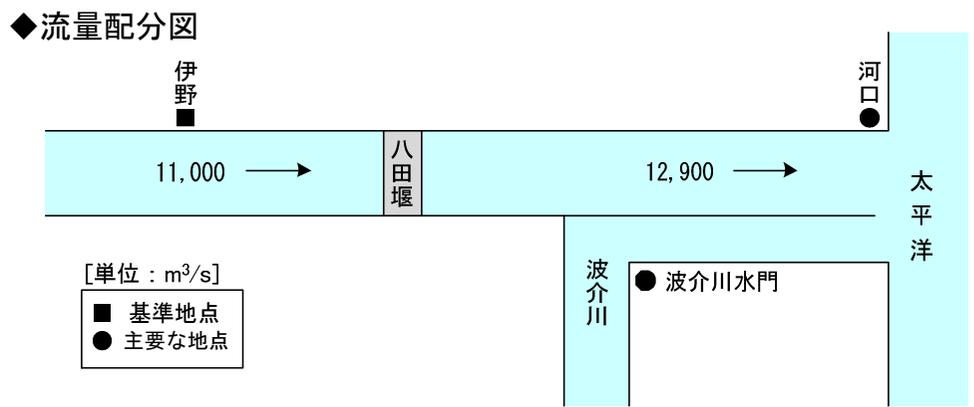
河川整備基本方針（平成20年3月策定）

- ◆治水基準地点： 伊野
- ◆計画規模： 1/100
- ◆計画降雨量： 伊野上流：597mm/2日
- ◆基本高水ピーク流量： 伊野：17,000m³/s
- ◆計画高水流量： 伊野：14,000m³/s
- ◆洪水調節： 既存施設の有効活用と洪水調節施設の整備により伊野基準地点で3,000m³/s調節



河川整備計画（平成25年12月策定、平成28年12月変更）

- ◆治水基準地点： 伊野
- ◆対象期間： 概ね30年
- ◆河道整備流量： 八田堰上流：11,000m³/s
(戦後第3位：平成17年9月台風14号)
八田堰下流：12,900m³/s
(戦後最大：昭和38年8月台風9号)
- ◆洪水調節： 大渡ダム、桐見ダム



堤防の整備（加田地区）令和3年5月撮影



新日下川放水路 令和6年3月撮影



河道の掘削等（用石地区）令和4年9月撮影

現行整備計画の事業の進捗状況

- 上流区間の加田地区の築堤が令和5年に完成し、一部嵩上げが必要な区間（谷地区）を除き、全川で堤防整備が概成。
- 本川では下流区間の流下能力向上のため河道掘削中であるが、上流区間では概ね事業が完了※。（※戦後第3位洪水対応）
- 支川では宇治川排水機場増設が令和元年に完了し、新日下川放水路が令和6年3月に完成。

事業箇所

- : 事業完了箇所
- : 整備実施中箇所
- : 整備予定箇所

- ・事業期間：平成23年度～令和24年度
- ・総事業費：約700億円
- ・主な工種：築堤、河道掘削、樹木伐採、侵食対策、堤防拡幅、内水対策、高潮対策、大規模地震・津波対策、浸透対策

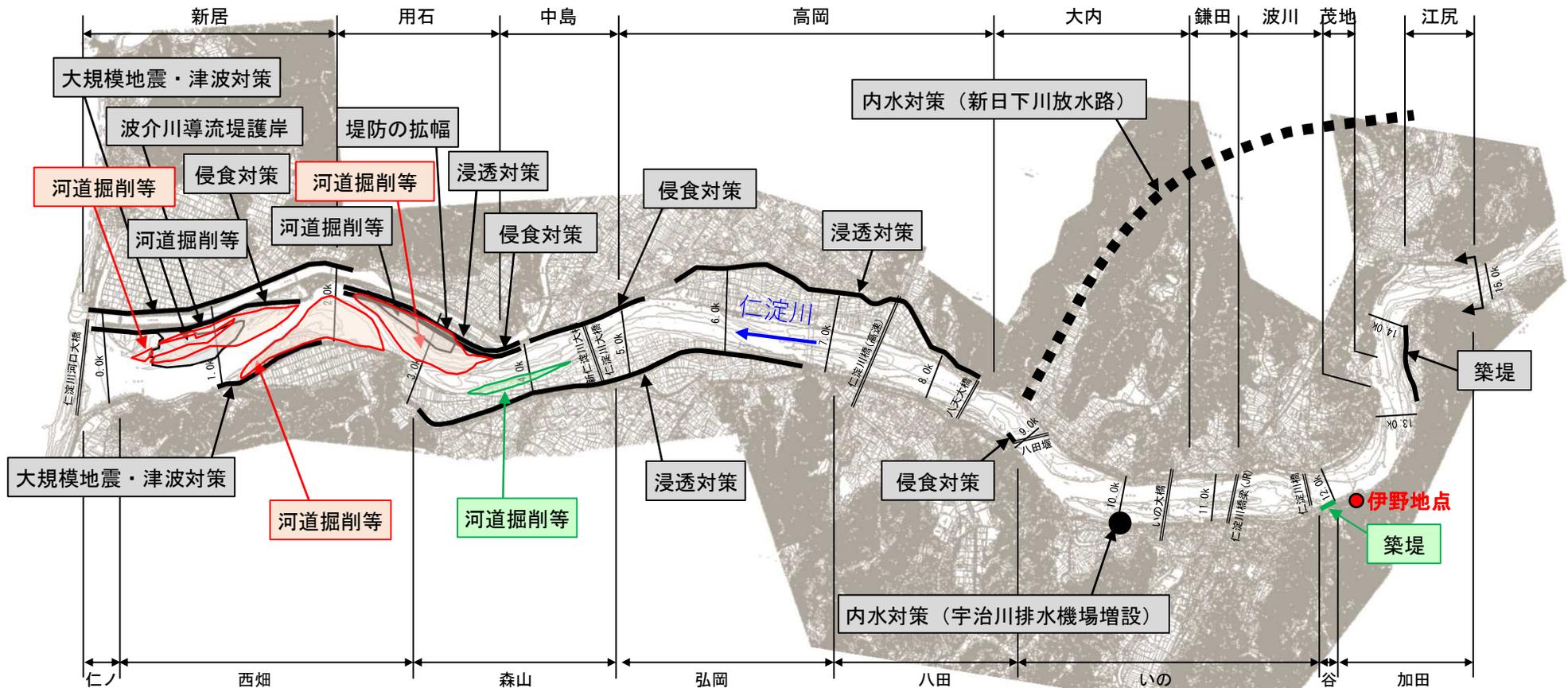
令和6年3月末時点



河道の掘削等（用石地区）



新日下川放水路香口



※「侵食対策」および「浸透対策」については、図中の実施箇所以外でも、今後、被災の状況や堤防の安全性の確認を踏まえ、必要に応じて対策を行う